

## 過疎集落におけるホスピス型地域づくりに関する研究

### A study on community improvement of the hospice type in the depopulated villages

建築計画分野 奥本裕美子

過疎化が進む山村集落は、現状の生活の質に依存することは数的、規模的に限界があり、「消滅」の一途をたどることになる。そこで、消滅の過程にあっても、縮減に合わせて生活環境を質的転換し、複層的コミュニティを創出していく地域づくりを「ホスピス型地域づくり」と定義する。縮減化の中で住民は自ら集落や生活の状況に問題意識を持ち、主体的に新たな活動やサポートをしている。それらが複層的になることで、多様な生活環境に対応し、豊かさをもたらしている。

Be dependent on the quality of life there is a limit to a number of current, in scale, village mountain village depopulation proceeds, will be steadily "disappear". Therefore, even in the process of extinction, defined as "community improvement of the hospice type" a community development to transform qualitative living environment to match the reduction, we will create a multi-tiered community. Residents have a Problem consciousness of their own settlements and life situations, it has proactively the support and new activities in the midst of reduction. That they become multi-layer, corresponding to a variety of living environment has brought affluence.

#### 1. 研究の背景と目的

1960年代の高度経済成長をきっかけに都市化が進み、山間部の集落はそれに伴い過疎化の影響を受けている。そして、生活関連施設の機能の低下、少子高齢化に伴うコミュニティの衰退など、様々な問題点が浮かび上がっており、山村集落は縮減化を迫られている。行政の政策として、地域おこし協力隊や、公営住宅などの施設開発などの地域活性化を意図する部分がある反面、市町村合併など、結果的に地方の山村集落を切り捨てているのも事実である。また、近年の集落の消滅は著しく、維持・存続が危ぶまれる集落において各段の対策を講じていった場合でも、今後ある程度の集落が地域住民の判断の結果として消滅していくことも十分想定される。このような場合も想定し、地域づくりの対策を検討することが重要である。

そのような状況の中で再生して元の活発な時期に戻すのか、撤退するのか、現状を見直し全うするのか。そこに住む人々はいま今後の持続性を考える上で分岐点にあると言える。再生でも、撤退でもなく、縮減化する過程に沿わせ、生活を変化させることで、その場所での生活を豊かにすることはできないだろうか。そこで、地域が縮減化の中でホスピス型地域となる過程、及び人々の生活にどう影響を与えているのかを明らかにする。

#### 2. 定義

表 1. 定義

脱制度的な活動	制度や形式にとらわれることなく、制度的な活動を超えて住民のニーズを受け入れ、幅広く柔軟に対応している活動
自然発生的な付き合い	普段の生活の中で、必要性を見出し、行なわれるようになった自らの生活を豊かにするよう多様な活動
縮減化した地域	人間、年代、属性やモノが限られている中で、出来事をこなさなければならない地域
生活の質的転換	日常生活の中で、満足感・充足感を持って暮らせること。またその達成を保障する社会的条件をつくることを重視する方向への転換
ホスピス型地域づくり	地域が縮減する中で、公的な支援だけでなく、脱制度的な活動や自然発生的な付き合いを通して、住民の生活を尊重しながら、生活の質的転換をはかり、複層的コミュニティを創出していく地域づくり

#### 3. 研究の位置づけ

山村集落のむらづくりにおいて、地域活性化や撤退ではなく、縮減化する集落の住民が生活を変化させながら豊かな生活を送り、集落が尊厳ある最期に向かう「ホスピス型地域づくり」について論じる。また、既往研究において、一集落についてホスピス型地域づくりの構成や評価がされているが、本研究では6集落で行い、さらに仕組みや影響を論じる。

#### 4. 調査概要

表 2. 各集落人口 (H.22 国勢調査)

対象地域	人口(人)	高齢化率(%)
和歌山県田辺市(旧龍神村)	3719	39.3
奈良県吉野郡天川村	1791	41.9
奈良県吉野郡下北山村	1039	43.2
奈良県吉野郡黒滝村	840	43.0
和歌山県東牟婁郡北山村	504	48.0
奈良県吉野郡上北山村	670	43.9

調査は、対象地の住民、行政関係者に対し、ヒアリング調査を行った。項目は、対象地の縮減化による変



ている。しかし、1,2年単位の山村留学などでは、一時的な効果しかなく、小規模校への不安に対する根本的な改善にはなっていない。

**運動会・文化祭** 一方で、文化祭や運動会などの学校行事は地域でサポートしながら行なわれているところが多い。子どもたちだけでは、プログラムに幅を持たせることは難しく、地域の人のサポートによって、成り立っている。地域住民にとっても、その行事に参加することが大きなイベントであり、近所同士で誘い合って参加している一つの楽しみとなっている。文化祭は、地域の人々も出品するなど、地域全体で盛り上げている。

**地域との連携・交流活動** 表8から、地域内でも地域住民による様々なサポートが行なわれている。学校は、住民参加型として解放されたものとなり、住民が行き来する世代を越えた交流の拠点となっている。授業を住民が行うものから、地域訪問など生徒から住民と関わりを持つもの、そして除雪などの自主的なサポートも見られる。このような活動は自然発生的な付き合いが生まれる動機となる。

表11から、地域の交流活動は様々なものがある。地域訪問では、学校で採れたさつまいもを学生が地域住民に喜んでもらいたいという考えから始まった。これは、地域の中でお互いに支え合っている活動であり、この活動から、住民も学生のためにできる活動を考えるようになる。相互のサポートが成立している。お互いに協力しあうよう、意識が変わっている。

### 3) 産業の衰退による生活の変化

どの集落も共に昔は林業で栄えた地域であり、材木の価格が低迷したことによって、衰退を余儀なくされた。集落の基幹産業であった林業は人々の生活にも影響を与え、変化をもたらし、仕事を村外に求めることも少なからずあったため、人口も流出した。

林業が生業だった地域にとって、それまで林業によって、地域が活性化し、潤っていたため、林業の衰退は大打撃であり、集落と住民の活気を衰退させてしまった。それから、住民は趣味などを活かす活動をしたり、その他の農林水産業をするようになってきている。

### 4) 公共観光施設の変化

観光施設はかつて観光客に対して開かれた施設であり、住民にとっての存在価値はあまりなかった。それから、観光客が減り、その施設をこれからどのように活かしていくべきかという考えを役場側が考え始めた。そして、住民へ開かれ始め、住民のニーズを受け入れながら対応が変化している。

観光客は一時的に訪れるものであるが、観光施設も住民もその集落にあり続けるものであり、その接点を多くしていくべきだという考え方が伺える。

表 8. 地域との連携・交流活動

龍神村	<input type="checkbox"/> 森林教室 <input type="checkbox"/> 伝統体験 <input type="checkbox"/> 授業開放 <input type="checkbox"/> 除雪
天川村	<input type="checkbox"/> 小・幼の交流 <input type="checkbox"/> 寄贈 <input type="checkbox"/> ふるさと集會 <input type="checkbox"/> 田植え・稲刈り
下北山村	<input type="checkbox"/> 伝統産業体験 <input type="checkbox"/> 文化祭
黒滝村	<input type="checkbox"/> ふれあい収穫祭 <input type="checkbox"/> 本宮町連合運動會
北山村	<input type="checkbox"/> 地域訪問 <input type="checkbox"/> ふれあい広場

表 9. 教育に関する取り組み

天川村	<p>学校に関しては、村で協力しながら開かれた学校づくりをしていこうというのがありますね。小学校は一校しかありませんからね。地域と協力して行事でも何でもやっていこうと思っています。老人会の方に特にお世話になっております。行事ごとに老人会の方にお声かけさせていただいて、最近はずっとやらせてもらっています。</p> <p>■山村留学          現在は、山村留学やってはおるんですけども、たまたまね、お金がかかっていかなあかん事業なんですけども、基本的な考えとして、子どもが三人以上おったらまあやろうと、決まりというか、まあ余裕があるわけじゃないんですけども、お金の面、蔵入・蔵出の面も5人であつても6人であつても、赤字は赤字なんですけども、赤字があつても、山だけ(少ない)なのと、こんだけ(多い)なのでは全然違いますからね、よそやったらクラス替えとかあるけど、そんなもないしね、だから幼稚園入ってから、中学校卒業するまでずっと同じメンバーじゃないんですか。それはそれで良いやけども、やっぱりそれについているのは子どもにとってもプラスじゃないんで、やっぱり子どものためにプラスにもよくなつて言つたらまああつて、まあ村外の子どもたちに来てもらって、新しい血つて言うたらまああつて、そういう子どもたちと学校生活もわがからで、あつて、まあ、村外の子が来てくれたら、複式学級を免れることができるんですよ。でも、よその子が来てくれたら、2、3年生が一緒になつたりとか、そういうふうな感じにもう2、3年生したらなるんやうになつていこうかな。</p>
下北山村	<p>■山村留学          現在は、山村留学やってはおるんですけども、たまたまね、お金がかかっていかなあかん事業なんですけども、基本的な考えとして、子どもが三人以上おったらまあやろうと、決まりというか、まあ余裕があるわけじゃないんですけども、お金の面、蔵入・蔵出の面も5人であつても6人であつても、赤字は赤字なんですけども、赤字があつても、山だけ(少ない)なのと、こんだけ(多い)なのでは全然違いますからね、よそやったらクラス替えとかあるけど、そんなもないしね、だから幼稚園入ってから、中学校卒業するまでずっと同じメンバーじゃないんですか。それはそれで良いやけども、やっぱりそれについているのは子どもにとってもプラスじゃないんで、やっぱり子どものためにプラスにもよくなつて言つたらまああつて、まあ村外の子どもたちに来てもらって、新しい血つて言うたらまああつて、そういう子どもたちと学校生活もわがからで、あつて、まあ、村外の子が来てくれたら、複式学級を免れることができるんですよ。でも、よその子が来てくれたら、2、3年生が一緒になつたりとか、そういうふうな感じにもう2、3年生したらなるんやうになつていこうかな。</p>

表 10. 運動会・文化祭

天川村	<p>行きます。みんな行きます。子どもがおるからな。小さい子がおるから。楽しみ、お弁当持ってきた。明日はお祭りやけど、お弁当作る？お寿司にする？炊き合わせにする？ゆうて(近所の人)聞きに来てくれる、するんやったら一緒にしよって言うてな。よしよして、一緒にするのめ嫌しいわな。田舎のほうの人がよろしいわ。小学校は減つても一校あるから寂しくない。</p> <p>■運動会は、老人会みんな行くぞ。老人会は絶対声がかかるし。この村は、学生の人数がすごく少ないやろ。やから、助けてあげんとあかんやろ。やから、みんなと一緒に行ってね、ちょっとだけ何か出たりして、あとはね、子どもを応援してあげるんよ。</p>
上北山村	<p>■運動会は、老人会みんな行くぞ。老人会は絶対声がかかるし。この村は、学生の人数がすごく少ないやろ。やから、助けてあげんとあかんやろ。やから、みんなと一緒に行ってね、ちょっとだけ何か出たりして、あとはね、子どもを応援してあげるんよ。</p>

表 11. 地域との連携・交流活動

天川村	<p>■稲刈り          住民の方の田植えと稲刈りを実際にお手伝いさせて頂いています。昔は、子どもが大勢いたりとか、周りで助けあって稲刈りをしてましたけど、今はみんな一人でやってしまうやろ。家族総出で稲刈りするこんなかんじだからね。やから、実際にお手伝いさせて頂くのと、子どもたちにも農業を学んでもらおうかなと、そんな目的やと思います。</p>
龍神村	<p>■除雪          冬は結構雪が積りますんで、道路の雪は溶かすんですけど、歩道の雪はそのままですんで、子どもたちはその歩道を歩いて登校しますんで、滑ったりね、ときどきしてます。それで、危ないし、かわいそうやうことと、住民の方が除雪作業をしてくれています。結構踏み固められているので、大変かと思っておりますけど、思いやりですわね。</p>
上北山村	<p>■地域訪問          毎年、村内の一人暮らしのお年寄りに学校で子どもたちが育てたさつまいもを配っています。約70軒あるんですが、一人ひとり、手渡しで配っていますよ。地域の方も子どもたちが作ってくれたさつまいもを届けてくれるのをとても楽しみにしています。一人暮らしのお年寄りの方が増えてきて、さつまいもは前から育ててんでんですけど、それを村の人に配っていきかかって。それで、配ったらお年寄りの方が大変喜ばれたんで、現在まで続いています。</p>

表 12. 産業の衰退と趣味

天川村	<p>林業は昔は良かったけども、もうお金にならないから、みんなやめてしまったわな。</p> <p>でも、もう山も荒れてしまへど、林業も難しいな。学校に木使ったりな、最近のはしてはるけど、山の村とかはうらだけじゃなくて、みんな林業しなくなつて、木をどうしようかってやんやでるからね。だから、みんな買って欲しいからなかなか林業は難しいんよ。</p> <p>林業が衰退し始めてから、林業する人も減つてきて、私はもともと踊りと歌が好きでやってたんやけど、いろいろ呼ばれて行くようになってたね。福祉施設とかね。みんなによろしくってささくって、それで、うれしいから、みんなの前でもいろいろ踊ったりして。天川の祭りとかでもね、踊ってるんや。それが私の今の楽しみやからね。</p>
下北山村	<p>■産業は、昔は林業でしたな。林業ではやっぱりやつたんですけども。今は規模は小さいんですけども、まあこの養殖されてる方もおられますよ。農林水産業、うちはいまはね、春まなつていう特産品があるんですけど。これは、下北山でしかできないって言われてるんですよ。霜が降りて、葉がぎゅって凝縮されてね、隣のむらやと、また急激に寒いよつて、だめやつたりね。そんなんがあるらしいですわ。</p>

表 13. 公共施設の変化

下北山村	<p>■温泉施設          あと温泉の施設は高齢者は無料で、高齢者の方もね、毎週巡回バスを出してね、村内の高齢者の人、車持っていない人のために、もう車10人乗りくらいのバスを出してすわ。温泉に住民の方も気軽に誰でも行けるよなと、そういうことを考えてすわ。去年、おとしくらいに始まったかな。私に行きたくないと、せつかくむらに良い温泉があるのに、私に行きたくないという声が上がって、スポーツ公園のほうで巡回するようになりました。</p>
黒滝村	<p>■温泉施設          温泉は、住民の高齢者の方は無料で入っていただいています。ここの方には近くの良い温泉があるのにも関わらず、入ったことがない住民の方が多いです。ね、やっぱり、なんぼ温泉があつてもね、住民の方に入ってもらわなあかんのちゃうか。</p>
上北山村	<p>■ゴルフ場          いまは村営というかたちで営業しているんですけど、子どもたちは無料、大人は割引があります。だから、村内の人は手軽にできるよつて入っているんですけども、子どもはそれで団体で奈良県代表になつた子どももいてるしね、その子はいま高校で外の学校に進学してますけど、大人は誰も勝てないです。</p>

## 5. 新しい組織発生の仕組み

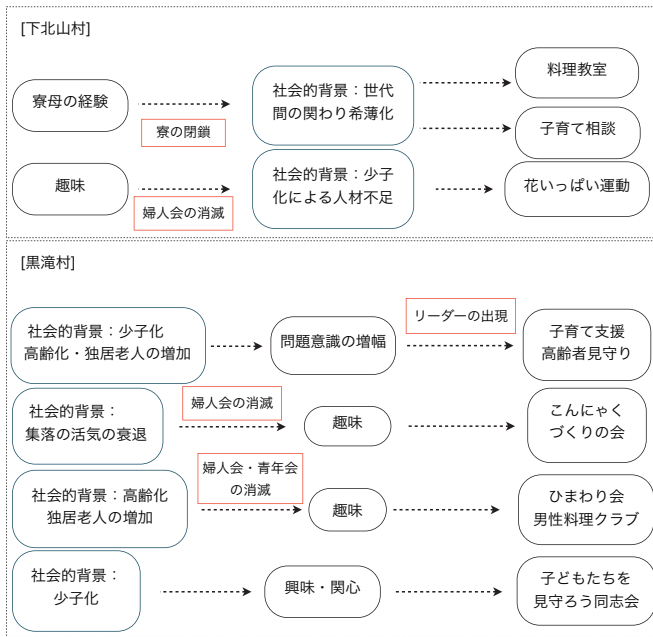


図 1. 新しい組織発生の仕組み

多くの集落において、新しい組織が発生しているが、その発生の仕組みにはそれぞれの集落が抱えている社会的背景と集落の状況の変化が大きく関わっている(図 1)。住民が集落や住民自らの状況を把握し、問題意識や危機感をもつ。そして、その社会的背景からの解決策を導くようになるのだが、だいたい 60 歳で退職し、今までの経験や知識を活かして活動をする。もともと、経験を活かして何かしようとしているときに社会的背景を踏まえるのか、問題意識を持ったときに、それならどの経験を活かすかと考えるのかという若干の違いはあるが、共通して、住民に意識の変化をもたらしている。

## 6. 組織間の作用

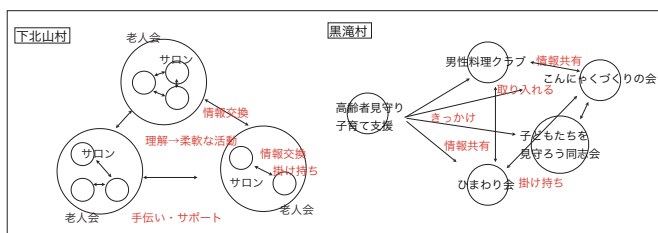


図 2. 新しい組織発生の仕組み

下北山では、老人会が各地区にあるため、活動自体は活発に行なわれているが、それぞれの人数に隔りがあるため、地区のイベントなどでは、人手が足りないことがある。そのときに、お互いの村の老人会や婦人会で助け合い、人手を補っている。

その老人会の中にもいくつかのサロンでわかれており、新しい活動があれば共有し、会員各々が生活の一部として、意味のある場所として過ごしている。そして、他の地区とも交流があることで、情報を共有でき、全体の活動の質の向上にもつながっている。

また、住民活動同士でも情報を共有し、両方参加する住民も見られる。それぞれがお互いの活動を理解することで、活動の幅も広がり、さらに住民に合わせた活動が可能となる。

## 7. 交流の場の変化

### 1) 郵便局と住民の関係

図 3 から、昔は郵便局と住民との関係は業務的な付き合いで一方的な付き合いであったが、現在では、郵便局も近所の一部として生活環境に存在し、相互に付き合いをすることによって、信頼関係を築いている。そこから、公助だけでなく、人同士の付き合いとして、共助が生まれている。集落の郵便局は、住民との関係性がとても濃く、郵便業務だけでなく、その集落の憩いの場となっている地域も見られた。集落に商店などの施設・建物が限られるため、集落の郵便局も集落の一つの交流の場としての意味を持つようになってきている。そして、その郵便局にとっても時間をかけて来てくれる高齢者に対し、自らものを届けてあげるなど、一人ひとりの住民に合わせた脱制度的な活動が見受けられる。そして、本来の郵便業務をしに行く目的の場ではなく、郵便局に行く一つ的手段としてとらえられ、局員や住民と話したり、物々交換したりと、郵便局の意味が多様化している。局員が住民の要望に幅広く対応し、住民の補助を積極的にすることで、住民も絶大な信頼を抱いている。次第に、用事がなくても郵便局により、話をするという、地域の日常の一部として捉えられる。

### 2) 商店と住民の関係

図 3 のように、以前は商店に行く住民は分散していたが、現在では一つの商店に住民が集まることにより、交流の場となっている。そして、共助を生むきっかけの場ともなっている。商店が減少することによって、その集落の多くの住民が現存する商店で買い物をする。それによって、交流の場の一つとなっている。子どもたちもよく通っていることから、世代間の交流も生まれる。そこで、交流を通して、地区をこえて打ち解けることができ、他の住民の暮らし方も知ることができる。そこから、いつも来てくれる子どもたちの運動会を見に行くなどという集落にむけて新たな意識や行動が生まれている。以前は商店に行く住民は分散していたが、現在では一つの商店に住民が集まることにより、交流の場となり、共助を生むきっかけの場ともなっている。

### 3) 新しい組織の拠点での交流

様々な新しい住民活動があるが、その拠点となる場所も新たに生まれている。そして、その拠点の周りにある家も巻き込みながら「近所付き合い」のような関係を築いている。周りの家も巻き込むことによって、周囲の住民にも理解を得ることが出来、その住民たち

も興味を抱いている。

図3のように、以前は組織内で完結した関係だったが、組織とその拠点の近隣住民が近所付き合いのような関係になることによって、活動に対する理解が深まり、その活動への助け合いが生じる。

#### 4) 学校と住民の関係

少子化により、児童が少なくなった学校は、地域のサポートにより成り立っており、それらの関係性が変化していた。このように、様々なかたちで子どもたちと関わる機会が増加している。

以前は、集落でも学校で完結できていたが、現在では地域のサポートなしでは、多様な活動をしていくことが難しい。そこで、住民に役割をもたせ、開かれた住民参加型の学校にしていき、住民も意識が変わっていき、地域の学校を守っていくという自覚をもち、自主的な活動を行うようになってきている。

#### 5) 住民の発信と派生

こんにやく作りの活動が大きくなるにつれて、材料調達など、会員だけでは勤まらなくなった。そして、それを住民に提案することで、こんにやく作りの組織だけでなく、会員でない住民にまで、活動を派生させ、住民全体に参加を促している。そこで、住民は、活動に興味を持ち、自分にできる活動で協力している。縮減化した集落では一人が様々な役割を持つ必要がある。組織全体に参加しなくても、少しの協力という参加形態をつくり、属性に多様性をもたせている。様々なコミュニティに属することで、生活も多様化し、集落の活動も活発化する。

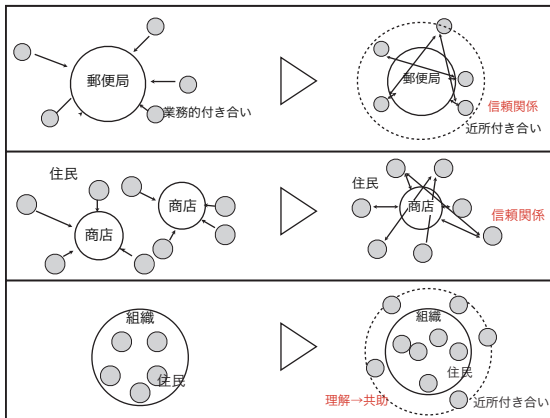


図3. 交流の場の変化

表14. 組織の派生

#### 黒滝村

こんにやく畑は作ってますけど、それを買ってもらったり、こんにやく作りの人が買って来て、持っていったら買ってくれる。…中略…だから、村の人にとってもね、良いんです。おもちのよもぎも揃んで、あそこへ持っていき、買ってもらうんです。むら全体でね。最初はそのんのはなかったんですけどね、あの活動がだんだん知られてきてね、誰かが言ったんちゃうかな。

### 8. 各集落における集落関係図

これまで述べてきた集落の生活の変化の要因、構成要素の関係図を図4に示す。

龍神村では、郵便局が住民の交流の拠点として機能し、老人会や青年会、学校が集落の活動の拠点としてコミュニティを形成している。その他の活動はそれぞれが相互に関係しており、補完関係にある。

天川村では、老人会がコミュニティの中心となっている。一大組織となった老人会の中に様々なコミュニティが集約されることで、多様な活動を行うことができ、情報共有なども素早くすることができる。

下北山村では、老人会と婦人会、学校、やまびこ寮が中心的なコミュニティを作り出している。これらは互いに協力、サポートし合っている。

北山村は、文化祭、収穫祭、老人会、青年会、学校というコミュニティがすべて関係し合うことで、集落内の活動が成り立っている。人口は少ないが、住民が多くの役割を担うことで、生活の密度を上げている。

黒滝村は、多様なコミュニティが多く存在し、それらが情報を共有し、連携することによって、集落のサポートできる環境はより密度の濃いものとなっている。

上北山村は、龍神村と同じように、郵便局で住民とのコミュニティが存在し、学校や文化祭、老人会が補完し合って、コミュニティが形成されている。

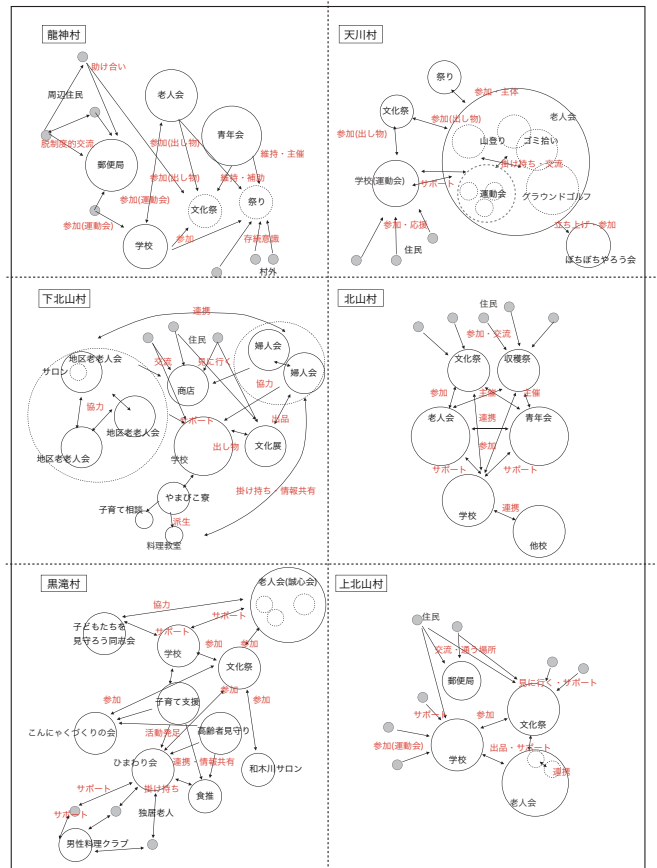


図4. 各集落における集落内関係図



## 9. 各集落のコミュニティの特性

8. で述べた各集落の関係図をもとに、コミュニティの特性を三つのパターンに分類する。

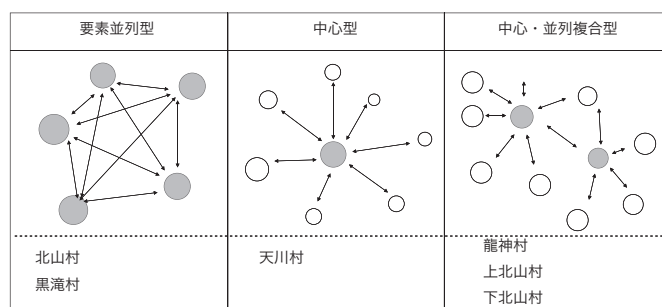


図5. コミュニティの特性のパターン

### 1) 要素並列型

要素並列型は、それぞれのコミュニティの要素が各集落に分散し、それぞれがお互いに関係性を持って、集落内に存在する。それらの要素が対等に存在し、互いに影響を及ぼし合っている。これは、縮減化による影響で生じた新しい組織や活動が、集落の特別なリーダーが行うのではなく、住民の中から多くの新しいリーダーが生まれたことが要因である。誰かが指導するのではなく、身近な住民が周りの住民と組織を作り、各々の役割を果たすことによって、成り立っている。そうすることで、横の繋がりが強く、他の要素とも繋がりがやすいため、やがて集落内に張り巡らされる。

### 2) 中心型

中心型は集落内に核となる要素が存在し、それが他の要素と密接に繋がっている。その核となる要素は、集落の縮減化に伴い集落の要素が縮小していく中、集落に必要な活動を新たに増やしていき、多くの要素と関係を持っている。集落に核の組織があることによって、多くの住民がそれに属し、その組織が集落の状況に合わせて柔軟に対応していくため、情報が伝わりやすく、すぐに対応することができる。そして、集落内が隔たりなく、需要に対応することができる仕組みになっている。

### 3) 中心・並列複合型

中心・並列複合型は、住民の活動・交流の中心となる要素が集落内に複数見られる場合を指す。そして、それらが中心となって、他の要素と関わることで、住民の需要に柔軟に対応できるようになる。複数の核があることによって、住民は必要に応じて拠点を移すことができ、生活をより多様化、複雑化することが可能となる。そうすることで、生活に選択肢を増やし、自分らしい生活を送ることを可能にしている。各同士の関わりは薄いですが、それぞれの役割が明確であるため、住民もその状況と役割によって、場所を選ぶことができる。

## 10. 結論

集落は縮減化によって、住民の生活におけるニーズは変化している。今まで、自助だけでできていたことが共助や公助を必要とせざるを得ない状況となる。その必要度は住民によって異なり、その多様性に対応できるように、集落の中で、様々なコミュニティの形態がつくられている。その結果、以前は見られなかった連携や協力、助け合いなどを内発させ、お互いに生活を円滑に、豊かにするための努力が見られた。

集落がホスピス型地域となる場合、まず人口規模みると、人口が多いほど既存の組織が残り、その組織が縮減化に合わせて活動を変化させている。また、1000人前後の人口規模の場合、大きな組織としての活動には限界があり、新たな活動形態を作り出していた。それに合わせて属性も変化させ、一人の住民が多くの役割をもつことによって、生活の質が担保されている。また、下北山村では、既存の組織も縮小しながら残り、それらが補完し合うことによって、活動の継続を可能にしている。さらに人口が少ない地域では、一応組織は存在するが、その団体ごとの活動としてではなく、住民全員参加で助け合う形態であった。これらは、集落の規模の変化に応じて住民の属性や活動の単位が変化しており、住民自ら生活や集落の状況に問題意識を持ち、柔軟に変化させていった結果である。

また、学校と地域の関わりにおいても、人口規模が大きいほうが、多様な関係が築けている。しかし、それが少ない地域においても、より密着した関係が築けており、その地域なりの活動の工夫がある。

縮減化した集落では、できる活動が限られているため、住民だけで生活の需要に応えることは難しい。しかし、それを複層化させることによって、より多くの需要を満たすことを可能にしている。それを住民が主体となって生活から気づくことによって、柔軟に生活が変化している。各集落において、コミュニティの形態は異なるが、その地域の状況に合わせて、住民は生活を変化させている。縮減化する過程によって、かたちは異なるが、トップダウン式ではなく、並列的なコミュニティの形態を創り出している。それは、住民自らが考え、生活の質的転換をし、行動しているからであり、その集落のネットワークが多層化することで、生活を豊かにすることができる。

各々の集落での生活において、いかに自分らしい生活が送れているのかということへの追求に価値をおくことは、生活の質的転換であり、縮減化した集落では自助・公助・共助のどの要素がなくなってもそれを達成することはできない。しかし、このようなホスピス型地域づくりにより、住民は自らの生活の質を追求し続け、生活に豊かさをもたらすことができる。

## 討議

### 討議 [ 倉方俊輔 ]

この論文の研究意義がわからないのですが。この「ホスピス型地域づくり」が学会論文で定義されていなければ、そう書くべきです。朝顔の観察日記のようで、事例がつつらとあるだけのように感じました。地域活性化などがある中で、ホスピス型の研究する意味はあるのですか。研究意義をもう一度説明して頂けますか。また、この論文ではどの集落でもホスピス型集落であるかのように思うのですが、他の集落の見る必要があるように思います。

### 回答

はい。まず、発表でもありましたが、地域活性化や撤退集落の研究は今までも多く為されています。その中で、集落が消滅する過程における集落の質の維持の研究は為されていません。私が調査対象とした集落も過去に一度は地域活性化を意図とした政策がとられているものばかりです。そして、現在ではその施設が残るぐらいで、その恩恵は何一つ残っていません。これから、このような集落が増加することは安易に予想することができ、そのような集落が今後、生活の質を向上させ、住民が生き活きと豊かに生活するために、ホスピス型地域づくりの仕組みや影響を解明する必要があります。そして、今後そのような集落のために、ホスピス型地域づくりの有用性や優位性を示すことが重要だと考えています。

また、実際に私が調査した集落の中にはホスピス型集落でない集落も多々見られました。私は、この調査を通して、住民のこの集落で一生暮らしたいとか、村の他の住民のために役に立つことがしたいとか、それによって、生き甲斐を感じているという住民に多く会って、そういった気持ちや意志がとても重要だと感じました。ホスピス型集落でない集落は住民のそういった意志があまり感じられませんでした。この論文では、ホスピス型集落だけを対象としており、その他の集落との比較は目的としていませんが、今後そのような集落と比較することが課題だと考えています。

### 討議 [ 嘉名光一 ]

2点あるのですが、まず一つ目は、分析がわかりにくいところがあったんですが、表それぞれに共通点はありますか。もう一つは、事例が多くて、とても調査されたのはよくわかるのですが、実際に生活の質的転換によって、質的満足が得られた事例をひとつあげてください。

### 回答

前者の質問ですが、コミュニティの特性の図については、その前に説明した集落内関係図を三つに分類し、特徴を示しました。集落内関係図のまとめとして示しています。また、その次にあった人口規模からみた表では、人口規模と集落内関係図ではどのような関係があるかをみました。その2つが重なれば良かったのですが、そうはなりませんでした。しかし、例えば黒滝村だと、コミュニティはネットワーク型で人口規模では1000人前後で新たな活動が多く発生しています。このように、集落内関係図から、それぞれの集落のホスピス型の特徴のまとめという位置づけで示しています。

後者の質問については、黒滝村という対象地では、婦人会などの既存の組織がなくなり、集落内で住民が顔を合わせる機会も少なく、集落での活気や生活の張りがなくなったということを知りました。そこで、まず一人の人が住民や村のために何かできないかということで、子育て支援や高齢者見守りという新しい活動を始められました。そこから、多くの活動が発足して、それに住民の方々がやり甲斐や生き甲斐を感じています。そのように、自分の生活を変化させながら、やり甲斐などを感じ、生活を豊かにしていることは、生活の質的満足を得られている一つの例だと考えています。